



浜家連 ニュース6月号

第274号
2023年6月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836

URL <http://hamakaren.jp/>

「アダマン号に乗って」を観て

副理事長 井汲 悦子

4月28日公開のフランス映画「アダマン号に乗って」を桜木町の映画館で観た。公開に先立って新聞で「精神医療 社会の拡大鏡、奇跡の施設が問うもの」という見出しで特集を組んでいたからだ。監督はフランスのドキュメンタリー映画界の先頭に立つと言われているニコラ・ヒリベール氏。しかも、このドキュメンタリー映画は今年のベルリン映画祭で最高賞の「金熊賞」を受賞している。



映画のパンフレットによると「アダマン号」はパリのセーヌ川右岸に浮かぶまるで木造の巨大な船のようなデイケアセンター。設計は医師や治療チーム、患者が密接な関係を築き連携しながら行い2010年に開館した。アダマンとは「極めて固い（意思）」「断固として屈しない」などの意味がある。このデイケアセンターは公的精神医療機関であるパリ中央精神科医療グループの一部で、いくつかの精神科医療センターや精神科病院などともネットワークを組んでいる。ケアチームは多様な人々によって構成されている。精神科医、看護師、心理師、作業療法士、教育者、病院職員、その他プロジェクトによって様々な外部協力者。肩書、地位、学位、序列、性格、仕事のやり方に関係なくすべての人々が治療に関わる。患者もケアチームもみんな協力して一緒に「アダマン」という場を作り上げているとある。

映画は「自分を手放しちゃいけない 絶対に 誰も 何があっても 手放すな」という患者の「人間爆弾」というロックの歌で始まる。その後は、ナレーションも BGM も無く、ミーティング、楽器の演奏、絵画、ダンス、裁縫、ジャム作り、映画上映会、作文、写真など思い思いの活動にいそしんでいる姿が映し出される。そしてそれぞれの思いを語る。家族のこと、自分のやりたかったこと、思うようにできなかったことなどをぼつりぼつりとあるいは早口で語る。様々な人種の人々がいて日本との違いを感じたが、年齢や話されている内容、雰囲気は日本と共通していると思った。時折映し出される、セーヌ川に泳ぐ鳥やデッキの植物、きらきら光る川面がほっとさせてくれる。ミーティングの議題も映画上映会の映画もプログラムの内容も、売上げの計算をするのも、患者とスタッフみんなて話し合って決める。お互いにフラットな関係で誰が患者かスタッフか判別できない。

印象的だったのは、コーヒーを入れる仕事が出来たいという人に係の人が何度も何度もアドバイスしたり、不慣れかなと思われる人に料理の仕上げをまかせ傍で最後まで見守っていたりして一人一人の思いを尊重し、思いがかなうように根気強く接する姿勢が見られた場面だ。患者ではなく普通の人として丁寧に接しているように感じた。

私や息子が参加している「木曜サロン」では当事者が中心になって会を進め、スタッフ、当事者、また他の参加者も分け隔てなく過ごしている。また、息子が参加している「くつろぎの部屋」でも自分たちの意見が自由に言え、反映され、会の主催者と参加者が対等な関係で進められている。だから、この映画を観ても「やはり、当事者主体の活動が望ましいな」と特別な思いは持たなかった。

しかし、ニコラ・ヒリベール監督は「この25年間フランスの公的な精神科医療の状況は悪化してきています。予算削減、病床の閉鎖、人員不足、チームの意欲喪失、施設の老朽化、管理業務に追われ単なる警備員になりがちな介護者、隔離室と身体的拘束の復活。この状況がこの映画を撮る動機になったことは間違いありません。アダマンのような場所は奇跡的でさえあり、いつまで続くのか疑問に思うほどです。」とインタビューで言っていた。奇跡ではなく、着実に広まってほしいと願うばかりである。

浜家連の動き



☆横浜市及び横浜市会会派へ要望書の提出、懇談会が行なわれます☆

令和6年度予算編成に向けての要望書提出、懇談会が行われますが、その日程についてお知らせします。我々の思いを伝える数少ないチャンスです。多くの方のご参加をお待ちしています。

要望書提出、懇談会日程

公明党	6月13日(火)	13:00~13:45
自民党	6月21日(水)	16:00~16:40
立憲民主党	6月29日(木)	11:15~11:45
日本共産党	調整中	
健康福祉局	8月8日(火)	14:30~16:00

第15回浜家連通常総会が開催されました

第15回浜家連通常総会報告

事務局 中居武司

青空が広がる5月26日(金)、午後1時30分から横浜ラポール2階大会議室にて、NPO法人浜家連第15回通常総会が開催されました。

ここ3年間はコロナ禍の影響で書面表決による小さな総会、浜家連だけの総会でしたが、コロナ感染症が第5類に引き下げられたことから、今年度は来賓として横浜市健康福祉局障害自立支援課長今井 智子様をはじめ、横浜市会健康福祉・医療委員、市精連から5名の方々にご出席をいただきました。

司会の西川 進さんより開会が宣言され、第15回通常総会が始まりました。

最初に宮川理事長から2022年度の活動についての挨拶がありました。来賓の方々からは総会開催の祝辞、浜家連の日々の活動に対する感謝や今後期待することなどのご挨拶をいただきました。そんな中で、横浜市会健康福祉・医療委員の方から、私は精神障害がある家族のなかで育ちました。今、私の身内が社会福祉法人「陽だまりの会」を運営しています。とのお話が強く印象に残りました。

司会者から、議長 高塚清さん、書記 浅田容子さん・藤井裕子さん、議事録署名人 藤井るみえさん・廣津深緑さんが推薦され承認されました。

高塚議長の議事進行で、最初に総会が定款27条に基づいて成立していることが報告され、議事に入りました。

第1号議案「2022年度事業報告書(案)」、第2号議案「2022年度活動計算書(案)」、第3号議案「監査報告」について提案説明が行われ、採決の結果、賛成多数で承認可決されました。

第4号議案「2023年度事業計画書(案)」、第5号議案「2023年度活動予算書(案)」について提案説明が行われ、採決の結果、賛成多数で承認可決されました。

第6号議案「役員を選出について(案)」提案説明があり、採決の結果、賛成多数で承認可



決されました。

ここで議事は終了し、議長、書記は解任されました。

議事後、新任の理事と退任される理事の挨拶がありました。

長年副理事長や常任理事で活躍された大羽更明さん、同じく常任理事として長年活躍された杉美代子さんが理事を退任されることになりました。これまでありがとうございました。今後も今までと同様に浜家連にご支援をいただければと思います。

最後に、浜家連が運営母体になっている「青いとり作業所」の施設長 檜波田孝一さん、「わかば工芸」の施設長 丸山義明さんが紹介され、お二人からご挨拶をいただきました。

最後に司会の西川さんから閉会宣言が告げられ、浜家連通常総会は終了しました。

【2023年度活動方針（抜粋）】

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ここ3年間は会議や研修会等の中止を余儀なくされ、会員間の対面での交流の機会を制限されましたが、継続の大切さを考慮し、今年度も次のような課題を念頭において事業内容を充実させます。

1. 家族と当事者の高齢化による会員数の減少が活動力の低下を招くことを懸念し、情報を共有し、柔軟かつ現実的に対応しながら困難を克服する工夫をします。
2. 精神障害者への福祉施策が他の障害に比較して遅れている実態を踏まえ、三障害を一元化して偏りのない平等な共生社会に向けた保健・福祉施策の実現を訴えていきます。
3. 医療関係者には、患者の意思決定の尊重、薬物治療の偏重是正、丁寧な説明と対話の重視、利用者の立場に立った医療の実施、ならびに福祉との連携を求めています。
4. 「精神障害にも対応する地域包括ケアシステム」の構築推進を目標として、相談事業にはじまる地域生活支援事業、就労支援事業など各種の支援施策を面的に整備し、当事者と家族の個別ニーズに合った施策を実現するよう、行政に求めています。
5. 長期入院障害者の退院後ならびに在宅の重症障害者の、地域での安心した生活を実現させるため、ケアの厚い精神障害者グループホームやショートステイ、レスパイト（休息）用の住宅など、多様な住まいの場を確保する運動をします。
6. 社会と繋がるのが困難なひきこもりの当事者を対象にした、訪問型の適切な医療・福祉のサービスを強化し、当事者の自立に向けた多様な支援サービスを拡充するよう、行政や関係者に要求していきます。

NPO法人浜家連 2023年度年間計画表

開催日	行事名（内容・テーマ）	内 容・講 師	会 場 ・ 時 間
7月3日 （月）	家族による家族学習会 担当者研修会 in 横浜	家族学習会実行委員会 委員	横浜ラポール2階 大会議室 9：30～16：30
9月30日 （土）	第1回市民メンタルヘルス講座 生活臨床・家族支援 「生活を見ずして治療はできない」	伊勢田 堯 氏 精神科医学博士 こころのホームクリニック 世田谷	横浜市健康福祉総合 センター 13：30～16：00
10月28日 （土）	第2回市民メンタルヘルス講座 統合失調症治療の現在地 高校での精神疾患教育	笠井 清登 氏 精神科医学博士 東京大学大学院医学系研究科脳 神経医学専攻臨床神経精神医学 教授	横浜市健康福祉総合 センター 13：30～16：00
11月18日 （土）	第3回市民メンタルヘルス講座 上手な診察の受け方のコツ 改訂版「統合失調症薬物治療 ガイド」について	市橋 香代 氏 精神科医 東京大学医学部付属病院精神 神経科特任講師	横浜市健康福祉総合 センター 13：30～16：00

12月9日 (土)	第4回市民メンタルヘルス講座 就労について	金子 由紀子氏 特定非営利活動法人横浜市精神 障害者就労支援事業会 統括施 設長 ・当事者 未定	横浜市健康福祉総合 センター 13:30~16:00
2024年 1月27日 (土)	第5回市民メンタルヘルス講座 双極性障害を知ろう	加藤 忠史 氏 精神科医 順天堂大学医学部精神講座主 任教授 ・当事者 未定	横浜市健康福祉総合 センター 13:30~16:00

*上記のほか「家族による家族学習会」、単会会長交流会等があります。

単会からのたより

「今までを振り返って」

あおば会 M.K.



2022年3月14日に息子が措置入院という形で入院しました。「統合失調症」と告げられました。息子が疲れ果てていたので、息子が入院し急に静かな生活となり、普通の生活をするのに何か月もかかりました。

ちょうど入院前後に家族会を知り入会させて頂きました。皆さんの話を聞かせて頂き、また自分たちの話も真摯に聞いて下さり、自分一人ではないと力付けられました。

入院後も息子自身はかなりの強情で4ヵ月薬を拒否し、いかに退院するかをあらゆる手段でやってきました。ちょうど4ヵ月過ぎた頃に、先生から薬を飲むか、注射にするか今日中に決めるように言われて、仕方なく薬を選び飲むようになりました。薬が合っていたようで、たちまち回復に向かって行きました。面会で照れた顔で笑ってくれた時は、言葉が詰まって出ませんでした。二度とこんな顔は見られないと思っていたからです。

入院した日から1年1ヶ月、そして今はグループホームに入り作業所や訪問看護の方々、グループホームの方々とたくさんの支援で日々を暮らしています。

まだまだ私は息子と1対1で会うことが出来ません。父親が息子に協力し、息子と月1回会って話をしているようです。私は状況報告を聞かせて貰っています。

これから社会に出ていくときまだまだ彼には試練が待っていると思います。そんな時これだけの助けをしてくれて自分をわかってくれる人たちがいる事を支えに、前を向いて歩いて行ってくれたらと思います。

ここまで支援して頂いた方に感謝してもしきれません。これからは微力ながらお手伝いが出来たらと思います。まだまだ長い長い道のり、私も前を向いて進み、こんな私でも役に立てたらうれしい限りです。

§お知らせ§

市民メンタルヘルス講座の時に障害年金相談をお願いしている新横浜障害年金相談センターでは、横浜ラポールで障害年金無料相談を行っています。

場 所 横浜ラポール 2階 小会議室

日 時 不定期で時間は13:00~17:00

(日程については以下の予約先へお問い合わせください。)

ちなみに6月は6月22日(木)に行なわれます)

※ 完全予約制ですので予約が必要となります。

予約先 新横浜障害年金相談センター Tel 045-594-8864

【編集後記】総会が終わって2023年度の活動が本格的にスタートしました。要望書の提出や市民メンタルヘルス講座、そして単会のさまざまな活動・・・等々。今年度はコロナの影響もほとんどなくなりました。多くの方に浜家連をアピールできるよう、明るく楽しく活動できたと思います。(事務局 中居)